



令和6年9月5日

三河小中学校長会
会長 彦坂 登一郎 様

愛知県小中学校長会
会長 都築 孝明

公益財団法人古岡奨学会奨学金受給候補者の推薦について（依頼）

このことにつきまして、別添のとおり古岡奨学会より依頼がありました。

つきましては、「公益財団法人古岡奨学会第46期生(令和7年度)奨学生候補者推薦のお願い」により、奨学生候補者をご推薦くださいますようお願いいたします。

なお、推薦書の提出につきましては、下記のとおりです。ご多用のなか、誠に恐縮に存じますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

記

1 提出書類

奨学生推薦書（1名につき1枚）・・・5名分

※ 表面の最上段の枠内（西暦や月日、会長名等）は、記入・押印しないでください。

2 提出先

愛知県小中学校長会事務局（波多野慎次）

〒460-0007 名古屋市中区新栄一丁目49-10 愛知県教育会館6階

3 提出期限

令和6年11月22日（金）

4 その他

添付した文書の取り扱いには、ご注意をお願いいたします。

〈担 当〉

愛知県小中学校長会事務局 波多野慎次

〒460-0007 名古屋市中区新栄一丁目49-10

愛知県教育会館 6階

TEL 052-261-8152 FAX 052-261-6807



公益財団法人 古岡奨学会 第46期生 (令和7年度) 奨学生候補者推薦のお願い

※ 母子家庭で、母親が生活苦と闘いながら、せめて我が子の高校卒業を心から念願し、その子もまた母親の労苦に報いるべく、向学心をもって勉学に勤しもうとする方々に、可能な範囲で支援をする。
＜古岡奨学会設立 趣意書より＞

1 母子家庭で、経済的条件に恵まれていないこと

- ・ 平均年収所得は350万円以内を目安
- ・ 母親と同居。日本国籍を有する。
- ・ 離婚家庭より、死別家庭を優先
- ・ 一家庭につき1名。他の奨学金受給者も可
- ・ 未婚の母、父子家庭、祖父母家庭は除く。

2 基礎学力があり、3年間頑張り続ける生徒

- ・ 内申が9教科5段階評価で平均4.0以上を目安 (全日制高校・高等専門学校進学者のみ)
- ・ 向学心があり、困難に打ち克つ強くてしなやかな心を持ち、社会に貢献できる生徒

3 45期生より奨学金は3年間で76万2千円

※ 全額無償給与

- ・ 高1 (46期生) 1万7千円 × 12ヶ月 + 5万円 (入学祝い金) = 25.4万円
- ・ 高2 (45期生) 1万7千円 × 12ヶ月 + 5万円 (修学旅行補助金) = 25.4万円
(45・46期生は、毎月1万7千の奨学金と年1回のお祝い金・補助金。3年間で76.2万円)
- ・ 高3 (44期生) 1万6千円 × 12ヶ月 + 5万円 (卒業祝い金) = 24.2万円

4 奨学生候補者の推薦

奨学生候補者 15名

- ・ 令和6年9月 県校長会へ推薦依頼

10月 各地区校長会で説明

11月末 各地区で推薦者決定・県校長会へ報告

12月 県校長会で推薦者決定 (15名)

12月末 県校長会より推薦名簿の提出 → 当財団 愛知県担当・丹羽宏之まで

名古屋 5名

尾張 5名

三河 5名

5 内定通知書の送付

- ・ 推薦書受領次第、推薦中学校長に内定通知書を送付

6 高校合格の調査確認 (3月)

- ・ 当財団 愛知県担当・丹羽から該当校 (中学校) へ確認

7 採用通知 (3月)

- ・ 校長会および奨学生に送付

8 卒業生・入学生合同激励会 (3月)

- ・ 令和7年3月下旬に実施。母親と奨学生 (卒業生・入学生) が参加。
奨学生に対する説明会も併せて実施

＝連絡先＝ 愛知県担当

〒466-0824

名古屋市昭和区山里町74

八事パークマンション811

丹羽 宏之 (にわ ひろゆき)

TEL 052-832-6030

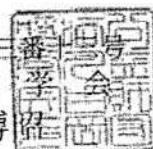
090-2136-4345



2024年7月吉日

愛知県小中学校長会会長 殿

東京都品川区西五反田八丁目三番
公益財団法人 古岡奨学会
代表理事 宮原 博



公益財団法人古岡奨学会奨学金受給候補者の推薦依頼について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は、当奨学会業務へのご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、ご高承のとおり、当財団では母子家庭の高校生を対象に、奨学金を給与する事業を行っております。

つきましては、2025年度(当会第46期生)の奨学金受給候補者について、公務ご繁忙の中、お手数とは存じますが、別紙当財団定款および奨学金給与規定等資料ご高覧のうえ、現中学3年在籍生徒の中からご推薦を賜りたく、お願い申し上げます。

ご推薦生徒のご選定にあたっては、奨学金給付規定第2条にございます各項目の条件を満たす、母子家庭の子女(日本国籍を有する)で、経済的條件には恵まれないが、基礎学力と向学心があり、困難に打ち克つしなやかな心を持ち、将来、社会に貢献できる能力を有している生徒をご推薦いただきたく、お願い申し上げます。母子家庭の子女以外は受給資格がありませんので、念のため申し添えさせていただきます。

なお、誠に勝手ではございますが、推薦書は2025年1月31日(金)までにいただきたく、ご高配のほど、重ねてお願い申し上げます。

記

ご推薦いただきたい人数 15名

- 添付書類
1. 公益財団法人 古岡奨学会 設立趣意書
 2. 同 定款
 3. 古岡奨学生候補者の選考基準について
 4. 奨学金給与の規程【46期生】
 5. 奨学生推薦書

※5. はデータでもご提供しております。

以 上

公益財団法人 古岡奨学会設立趣意書

設立者 古岡 秀人

〔(株) 学習研究社社長…設立時〕

回想すれば、私が五歳の時に、筑豊炭田の坑内事故で、父を一瞬のうちに失い、母は貧苦の生活に耐え乍ら、私ども兄妹を育ててくれました。幸に、学費が官費支給であった師範学校に入学する機縁を得て、大過なく今日に至ることができました。

高等高校を卒業していれば、今日の社会構造の中において、その人なりの才能と努力をもってすれば、十分に伍していけることは、既に産業界や文化面などの諸分野に亘って、多くの人材が活躍していることで立証されます。また、大学進学への途を志せば、資格において、それも可能であり、大学に入学すれば、多くの育英会の援助を享受することもできるでしょう。

現在の社会にあっては、最低高校卒業までは、親の子に対する責任と自覚し、吾が子への愛情が高校進学率を高めているとも言えましょう。

高校卒業が、人生の初期の段階のパスポートであり、進学率が高まれば高まるほど、生徒の家庭の事情が多様化することは否めません。殊に一家の大黒柱である父を、不時の交通事故とか病死などで失い、又は、やむなき事情のため離婚せざるを得なくなった母親など、不幸に直面しながらも生活を支え、子女の教育に献身しなければならない家庭も、世の中には非常に多いと仄聞しています。

こういう家庭環境にあって、母親が生活苦と闘いながら、せめて吾が子の高校卒業を心から念願し、その子もまた母親の労苦に報いるべく、向上心を持って勉学に勤しもうとする方々に対し、私は私のできる可能な範囲で、なんらかの尽力をすることができないだろうかと考えた次第であります。

ここに微財を基金として、公益法人古岡奨学会を設立し、本事業を通じて、いささかなりとも国家社会に貢献する人材の育成に寄与しようとするものであります。

以上

(昭和 55 年 6 月 4 日)